

令和7年度 第1回部活動地域移行協議会 会議録

○日 時：令和7年8月19日（火） 午後3時～午後4時50分

○場 所：名取市教育委員会 会議室4

○出席者：出席委員 11名（黒川会長、浅川副会長、熊谷委員、渡邊委員、高橋委員、峯岸委員、
大久保委員、佐藤委員、杉山委員、本郷委員、須永委員）
欠席委員 2名（菊池委員、岩倉委員）
事務局 7名（教育長 瀧澤信雄、教育部長 山家ちとせ、学校教育課 指導主事 横山勉
文化・スポーツ課 課長 堀籠純子、課長補佐 佐藤旭一、
スポーツ振興係長 板橋一成、文化振興係長 阿部知栄）

会 議 概 要

◇委嘱状交付式

令和7年4月の人事異動により新たに委員となった2名に対し、委嘱状の交付を行った。
（渡邊義行委員、峯岸寛仁委員）

1 開 会（進行：堀籠文化・スポーツ課長）

2 あいさつ 瀧澤教育長

多忙の中の出席に対し謝辞。

名取市内の小中学校の夏休みも、残りわずかとなった。来週25日の月曜日から学校が再開する。
ここまでのところ、子供たち、それから先生方も含めて大きな事故の報告はないが、1つ心配されるのが、熊の出没でゆりが丘やみどり台周辺で頻繁に目撃されている。

先日も高館おおぞら保育園の裏山あたりで目撃され、消防署の近くでもあり、学校が始まる中で、ちょっと心配しているところである。

引き続き該当する学区の保護者には、注意喚起のメールを出しているが、来週から始まるにあたって充分注意をしていきたい。

さて、昨年度の2月26日に初めてこの協議会を開催させていただき、委員の皆様からたくさんのご意見を頂戴したところである。

今回はそれを踏まえて、資料にもあるが、まず市内の中学校、義務教育学校の部活動の現状について、協議会で確認をしながら、前回も話題にさせていただいた、サッカー競技における地域移行の試行の現状について確認をし、そして前回ご意見いただいた、名取市としてのガイドラインが必要じゃないかということで、そのたたき台となる案を本日お示しするので、前回同様、多くのご意見を頂戴できればと思う。

本日はどうぞよろしくお願いしたい。

3 委員紹介及び事務局紹介

◇ 会議成立の承認

名取市部活動地域移行協議会設置要綱第6条第2項により、委員過半数の出席を確認し会議成立を宣言。

◇ 会議録署名委員の指名

会議録署名委員については、前回から輪番制とし渡邊委員と佐藤委員の2名を指名した。

◇ 会議公開の確認

名取市審議会等の会議の公開に関する要綱（以下「要綱」）第2条により、公開の対象となる旨を告げる。要綱第4条により原則公開であること、会議の議事録については概要筆記とし、委員名は伏せる形で記載することを確認した。

4 議 題

(1)協議事項

- ①市内中学校部活動の現状について
- ②サッカー競技における地域移行の試行の状況について
- ③名取市部活動の地域展開に関するガイドライン(案)について

協議事項の経過の概要及び意見

①市内中学校部活動の現状について

会議資料4ページから12ページのとおり事務局より内容を説明したのち、各学校の今回の中体連への参加状況や新人戦に向けて編成の現状などについて各委員より話を伺った。

<各学校の状況等>

○（第一中学校）

- ・部活動が非常に活発で、東北大会出場者が去年の倍に増加した。
- ・柔道、陸上（幅跳び）、新体操が全中出場、特設水泳が東北大会に出場した。
- ・吹奏楽部は50人の部員上限で県大会に出場した。
- ・活動は熱中症等の制限がある中で工夫して練習している。
- ・3年生引退後、新体制を模索中である。
- ・保護者の協力が非常に大きい。

○（第二中学校）

- ・剣道男子1名が東北大会に出場した。
- ・野球部は一中との合同チームで活動となり、新人大会も合同で参加予定である。
- ・女子バスケット部は新人戦に向けて、11人中10人がクラブチームでの参加、残る1人のみ部活動

での参加を希望していることから、新人戦では第一中との合同参加を進めている。

- ・吹奏楽部は小編成で県コンクール金賞を受賞した。

○（みどり台中学校）

- ・文化・運動部ともに意欲的に活動している。
- ・熱中症指数が高く活動制限が多い。
- ・陸上で東北大会に参加した。
- ・吹奏楽部が県大会に出場した。
- ・茶道部が地域の指導者の支援で活動を継続している。
- ・生徒数は増えるが2年後に大幅に減少する見込みである。
- ・サッカー部は増田中との合同チームで活動中だが、1年生が7名入り、将来的には単独チームでの出場が可能になるかもしれない。
- ・部活に対して中総体以外の大会に参加希望も出ている。

○（閑上小中学校）

- ・運動部は5競技、文化部は総合文化部（美術・音楽）で活動している。
- ・特設水泳はクラブチームとして多賀城の「アシスト」所属で東北大会のリレーに女子生徒1名参加した。
- ・特設水泳は校内の部活動の位置付けだが、実際の活動はクラブチームで行っている。
- ・総合文化部は吹奏楽・音楽に力を入れており人数も増加した。

<意見の内容>

○（委員）

- ・増田中の水泳部は実質クラブチームのみで活動している。
- ・仙南地区の水泳大会は予選会がなく、県大会に直接参加するための申請手続きが煩雑である。
- ・学校のプール設備不足も影響し、クラブチームでの活動が主流となっている現状がある。

○（委員）

- ・部活動への所属率が80%超で活動者が多い。
- ・子どもたちの活動をやりやすくする工夫や支援が必要と考える。

○（委員）

- ・外部指導者の活用は多いが、顧問の先生が必ず付き添っている現状かどうか確認したい。
- ・今後は負担軽減のために外部指導者にもっと任せる選択肢も検討すべきではないか。

○（事務局）

- ・部活動指導員制度（外部指導者が単独指導可能）も試行されている自治体もあるが、名取市ではまだ顧問と併用が現状である。

○（委員）

- ・第一中学校の野球部は外部指導者なしだが、親の会がスポ少登録し、スポ少での活動も並行している現状がある。
- ・バスケ部やバレーボール部は親の会が社会教育団体として練習環境を確保している。
- ・バドミントン部は地域の公民館を利用するなどして活動している。
- ・剣道部は外部団体と並行して活動している。
- ・これらは全てボランティアで運営されている。

○（委員）

- ・地域団体やクラブチームとの多様な連携で部活動が支えられている。
- ・バスケ部でクラブチームに移行する際に1人部活に残るという現状もあることから、多様な所属形態を今後も考慮すべきと考える。

②サッカー競技における地域移行の試行の状況について

会議資料13ページのとおり事務局より内容を説明し、委員より意見をいただいた。

<意見の内容>

○（委員）

- ・活動人数（中学生の参加状況）について、いつの時点のものか確認したい。また、クラブチーム参加は任意で、実際に3年生が参加しているか、1・2年生のみ対象かを知りたい。

○（事務局）

- ・先月（7月）に団体と話をした際に確認した活動人数である。3年生は入っていない。

○（委員）

- ・サッカー部の人数にはクラブチームに所属する生徒も含まれているのか確認したい。

○（事務局）

- ・5ページのサッカー部の人数の中に、このクラブに所属している生徒も含んでいる人数である。

○（委員）

- ・クラブチームとして大会に参加する時期と、その際の部活動に残る生徒の大会参加はどうか、今後の見通しを知りたい。

○（事務局）

- ・クラブチームとして、サッカー競技で参加する場合には、県の中体連の方に登録する必要があるが、年度途中でのクラブチームとしての参加は難しいとのこと。

- ・今年度までは単独チームで、中学校として参加するチームと合同チームとして参加するチームで進めていく予定である。
- ・地域クラブチームからは、次年度からクラブチームとして登録をして、中体連の方に出場したいという意向で、その申請が年明けぐらいまでの申請となり、8年度からクラブチームとして参加できるかという流れになる予定だが、状況を見ながら、調整して進めていく。
- ・今、サッカー競技だと、クラブチームはクラブチームのみで予選を実施し、県大会に出るような形で、部活動は、3地区など地区予選して、県大会へ行く流れとなっている。
- ・県の中体連の方でも、そのあたりを今後どうしていくか検討しているようで、今後は3地区大会とか、そういうところからクラブチームが入ってくる状況になるかもしれないと検討中だと伺っている。

○（委員）

- ・団体チームだとチーム編成する上でどう構成していくのはすごく悩ましい問題である。
- ・クラブチーム編成や人数の情報を保護者や子供たちにしっかり周知し、直前のトラブルを防ぐ必要があるのではないか。

○（委員）

- ・クラブチームには出場制限があるのか（例：ベガルタや 89ers のようなクラブチームは中体連に出場できるか）。クラブチームの参加が勝利至上主義や商業ベースに偏る懸念があるのか。
- ・自治体を跨ぐクラブチームの大会参加は可能か、種目ごとのルールの違いを明確にしてほしい。

○（事務局）

- ・種目によって中体連の規定やクラブチームの出場条件について、市町村の教育委員会等が認めたチームという一定の縛りはあったと記憶しているが、最近の中体連での情報はどうかを含め詳細については事務局で確認したい。
- ・例えば県南や県北において単独の市町村だけでは、人数が揃わず、昔からの市町村を跨いだ合同中というのがあったと認識している。
- ・地域移行自体が市町村を跨いで進行しているところもあるのではと思う。
- ・種目や市町村によって取り組みがバラバラなので、今後、事務局でその点整理して示す。

○（委員）

- ・柔道競技では市町村を超えて岩沼市のスポーツ少年団に所属して出場している現状がある。
- ・種目や地域によってクラブチームの扱いや移行の状況が異なり、整理と情報提供が必要ではないか。

○（委員）

- ・スポーツ少年団の野球の関係でみると、現在9チームあり、人数は比較的安定している。
- ・中学校ではクラブチームで活動するか、部活で活動するかの選択となるが、中学校の部活では

複数小学校から選手が集まり活動している。

- ・中学校の野球部で人数が少ないという理由で、野球をやりたい子供はクラブチームへ行くか、やりたいけど野球を諦める傾向が強まり、中学生の野球人口が減少している。
- ・そういう状況の中で少年野球団体として、地域や学校のエリアごとに中学校のスポーツ少年団の登録チームを作る案が出ている。この体制が確立すれば、中総体（中学校の大会）に出場できる明確な目標ができるのではないかと。その際、中学校ごとにチームを作るか、複数校合同で一つのチームを作るなど考えられる。
- ・やはり目標設定がはっきりしないと、クラブチームから中学校チームへの移行やチーム作りが難しいのではないかと。高校でも野球を続けて上を目指す選手にとって、中学校は重要な基盤であり目標設定が必要である。
- ・もし部活動がなくなり、中総体（中学校の大会）もなくなるなら、数年間頑張って組織を作る意味があるのか疑問に思っている。
- ・今後、地域移行やチーム統合の協力体制が整えば、積極的に協力し推進したい。団体として前向きに進める準備はある。

○（委員）

- ・PTAの関係では、保護者がよく内容を分かっていないので現時点では意見を出すことも難しい。
- ・サッカー競技において試行されたという現状を見ても、人数の多い競技に関しては、いろいろな意味で再編の時期であると思う。
- ・保護者も子どもも先生方も納得した形で、落としどころがあって解決の目途がついてくると良いのではないかと考える。
- ・今後、保護者や子供たちへ分かりやすく説明、情報発信をした上で意見を広く求めていくことが必要ではないか。

○（委員）

- ・野球やサッカー競技においては、クラブチームに入っている場合に、中学校の部活動のチームで出場できないなどといった登録制度の複雑さがあり、二重登録問題や出場資格に関する周知や明確化が必要ではないか。

③名取市部活動の地域展開に関するガイドライン(案)について

会議資料4を用いて事務局より内容を説明し、委員より意見をいただいた。

<意見の内容>

○（委員）

- ・3点確認させてもらいたいですが、1点目として、スケジュールを示されているが、ゴールが明確に分からない。校長先生の委員もいるので、中学校から部活動を完全にやめるという選択でやっている自治体は、学校から部活動はもう廃止するというのを、ある年度で明確に区切って

やっていたところがある。今回のガイドライン案は、できるところからやっていくと、何となく働き方改革などを含め、部活動をやっている先生方やそういう先生方の中で、どういう考えがあるのかという声をまず拾った上で、今の形が良いのか、例えば、令和12年度には部活動はすべての文化部も運動部も全部中学校からなくしますというような、どちらかを選択すべきではないかと思うところがある。

- ・2点目として、中学校の部活動に対して公費、市からどのぐらい補助金等が支出されているのか、もしそれがあれば、今後、クラブ活動などをやっているところに、補助金などを投入してやるということも必要なことではないか。
- ・3点目は、いずれにしてもこの持続可能な運営っていうのをどう考えていくかだと思うが、財政と人材というところで、その辺のところは、何かしら今回の中で明確に出ないと今後いろいろ聞かれても、説明が難しいのではないかと。

○（事務局）

- ・委員が言うように、最終形はどこかとは見えないっていうところは確かにある。いつまでに完全になくすというふうに目標設定している自治体もあるし、反対に、地域移行しないと云っているところもある。今まで通りと言っているところもあるので、ばらつきはあるが、国や県で10年度までに休日のまずは地域展開をすべて完了させるという方針は出しており、その先の平日についても状況を見ながら進めるものとしている。少し曖昧な表現だが、中学校から部活動を地域に移行展開するのが最終形だと思う。
- ・市教育長の集まりで、部活動の地域移行地域展開について議論した時に、10年度までの休日の部活動の移行が難しいという市が多数であった。名取市においてもいつまでにという目標を示すことが、今は現実的には難しい状況である。
- ・今回のガイドライン案は、まずは休日の部活動について地域展開を進めるとしているが、その先となると難しいところもあり、ガイドラインにどこまで盛り込むかどうかについては事務局でも検討し、また委員の皆さんのご意見もお聞きしたいところである。
- ・2点目について、現時点で中学校の部活動のために市で支出している予算だが、名取市中体連に補助金として助成している。（中学校体育連盟助成金1,200千円）また、その他に文化部で吹奏楽の補助金を支出している。（中学校吹奏活動助成金270千円）中学校から部活動が完全に移行した場合には、中学校部活動の助成金としては必要がなくなることは確かにある。

○（委員）

- ・先生方の理解と協力、モチベーションの維持が重要ではないか。働き方や意識の違いを踏まえて進めるべきである。また、保護者への説明も並行して行うことが必要である。

○（委員）

- ・ガイドライン(案)のスケジュールとした場合に、保護者や地域への周知が遅れないようにしてもらいたい。政策の大きな変更であるので、できるだけ早めに情報共有をはじめ、保護者や生徒、地域への徐々に理解を深めるべきではないか。

○（事務局）

- ・アンケート実施後の周知を計画しているが、早く現状を伝えられるように検討したい。

○（委員）

- ・関連して、議題の2のサッカー競技における地域移行の試行の状況については、保護者、中学校の生徒への周知はどのように周知されているのか。

○（事務局）

- ・サッカー競技の地域移行については、保護者説明会を実施し、意向を確認しながら加入してもらっている状況であり、市からも周知できる方法を取っていききたい。

○（委員）

- ・委員から話があったように、事務局で考えているスケジュールを大きく変更するのは大変だと思うので、少しでも早く現状を伝える中でアンケートの実施や令和8年に向かっていくということ事で事務局として良いか。

○（事務局）

- ・現状を伝えるというところから、やれるところからやっていく。サッカー競技における地域移行についても伝えられることを伝えていきたい。

○（事務局）

- ・ガイドラインの策定やアンケートの実施について、可能な限り前倒しで行い、情報発信に努めたい。

○（委員）

- ・中体連と部活動を切り離せない問題があるが、一部競技（水泳など9競技）において、全国設置率が20%未満の部活動は2027年から中体連の競技から外されるということが全国中学校体育大会（全中）において廃止が決まっている。それと部活動の地域展開の関係が現時点において不明瞭である。そのような状況であるので中体連の動きも常時入れていただきながら、情報提供やガイドラインの策定を進めていただきたい。
- ・情報提供として、3地区の柔道競技において、大会予算の問題があったが、子どもたちのために、地域でできることということで、地域企業が支援している例もある。予算が厳しい状況の際に建設会社が寄附によって20社ほど協力して、新しいカップを作ったということである。

○（事務局）

- ・委員から紹介のあった表彰カップの件については、建設業の方々から、寄贈していただいたということは聞いていた。市としてもできるだけ予算を確保できるようには努めていきたい。

○（委員）

- ・いずれは部活動をなくすという条件で移行するためにいろいろ組織を作ろうとしていると思うが、中総体がなくなるのであれば、わざわざ数年間頑張っている組織を作ることもしなくても良いのではと思ってしまう。

○（委員）

- ・先ほど委員より話があったとおり、全中がなくなる競技が9競技決まっている。水泳やソフトボールなどの競技については、ある県ではもう全中がないので、助成もしないという県も実際あるが、宮城県では県中体連としてまずそこまでは話がまとまっていない状況である。
- ・今後、上の大会がなくなれば、予選を宮城県もしないのではないか。しかしその場合は、廃止される種目の連盟や協会によっては、全中に代わる代替の大会を実施していくのではないか。

○（委員）

- ・基本的には休日のための地域展開ということで良いか。先程、サッカーのクラブチームの話が出ていたが、各中学校区の部活動での地域展開にしていくのか、名取市として中学校区ではなくて、名取市としての地域クラブを作っていくのかを確認したい。

○（事務局）

- ・市として、例えば中学校区単位のチームを作るなど、どういう形にするかというところまでの方針については、現時点では決められていない。
- ・種目や地域特性によって異なる形態が考えられる。また、平日の学校の部活動とは全く関係ないものを土日に地域のサークルで文化的な価値等も含め、そういったものに参加して、活動することも地域展開を指している。
- ・これまでの地域移行は、中学校の部活動をそのまま、土日に地域で担うという意味で移行というニュアンスが強かったが、地域展開はもっと幅広く捉えている。
- ・名取市の場合、地理的に生徒が自力で1ヶ所に集まるのが難しいので、もう少しコンパクトな自治体であれば、市で1ヶ所、ある種目の活動場所を作ればそこに集まって活動できるという状況は作りにくい。
- ・種目によって組み合わせていくような多様な形での受け皿が必要と考える。

○（委員）

- ・要望として、アンケートの実施については市内の全小学校5、6年生の保護者、子供たちに対し、具体的にどうしたいかを含めて、実施していただきたい。

○（委員）

- ・スケジュールに関しても、前倒ししながら進めるという考え方は良い。サッカーの試行の次の段階として、今後どういった種目考えていくかといったことや、今の小学生5、6年生への周知などある程度、次の段階に向けた具体的な検討を事務局で考えてもらい、次回提案や協議していくなどそういう場になるとありがたい。

- ・今回提示いただいたガイドライン案について、特徴的なことは何か。名取市で独自に考えている特徴的なことが何か分かれれば委員として検討しやすく、提案できると思う。
- ・事前に資料をもらい、確認してくることで、この協議会もより活発に実のある協議ができると思うのでぜひお願いしたい。

○（委員）

- ・委員から出された３点の意見について全体で再度確認した。
- ・サッカーで始まった、地域展開について具体的に次を考えていくべきではないか。
- ・ガイドライン名取の特徴を示していただければ、より具体的に考えられるのではないか。
- ・事前にメール等で連絡データ、情報などをいただくとより効率的ではないか。

○（委員）

- ・２つ目の議題でサッカー競技における試行の状況を確認したところだが、事務局から今後他のスポーツでも取り入れられるのであれば進めて良いかと話があった件についてお諮りしたい。
- ・ガイドライン案の４ページの３番の（２）について、運営団体実施主体、２行目に主体となる地域スポーツ団体、文化芸術団体等の整備充実を支援するとあり、今後、具体的な提案なども、事務局の方で検討してもらう方向で良いか。

○（委員一同）

- ・了承を得て、議事の一切を終了。

５ その他

（事務局より）

- ①４月に開催された県の担当者説明会の資料を参考に添付した旨を報告。
- ②次回の協議会日程は未定だが、近くなったら通知する。また、ガイドラインの修正案を事前に委員へメール等で案を送付する旨を確認した。
- ③今回のガイドライン案の修正や質問等は、メールにて問い合わせいただきたい旨を依頼した。
（回答期限：令和７年９月１９日）

６ 閉 会